

埼臨技 だより



発行所 公益社団法人 埼玉県臨床検査技師会 〒330-0072 さいたま市浦和区領家7-14-7
TEL 048(824)4077 FAX 048(824)4095 URL:<http://www.sairingi.com/>
携帯URL:<http://www.sairingi.com/keitai/index.html> Twitter : @sairingi

年頭挨拶

公益社団法人 埼玉県臨床検査技師会
会長 神山 清志



新年明けましておめでとうございます。

会員・賛助会員の皆さんにおかれましては、つつがなく新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。旧年中は当会に対し、多大なるご支援、ご協力を賜りましたこと、深く感謝いたします。

昨年は、第98回箱根駅伝で青山学院大が大会新記録で2年ぶり6度目の総合優勝を果たし、北京で開催された冬季オリンピック・パラリンピックでは日本の選手の活躍に皆が歓喜の声をあげました。また、将棋界では王将戦で藤井聰太竜王が渡辺明名人に4連勝し19歳6か月で史上初めて10歳代で五冠を達成しました。

新型コロナウイルス感染症に関しましては、オミクロン株が大流行し、2月に1日の新規感染者数が10万人を超える、夏には感染力の強い同株の新系統「BA・5」が蔓延し7月には1日の感染者数が初めて20万人を超えるといった状況に陥りました。そのような状況に反して政府は、8月に全ての新型コロナ感染者を確認する「全数把握」を見直し、知事の判断で、対象を重症化リスクの高い人に限定できる仕組みを導入すると発表し10月には新型コロナの水際対策も大幅に緩和され、社会は「withコロナ」という概念が浸透してきました。

当会の活動は、各種研修会のWeb開催が浸透し、現地に赴かず参加できるといった利点から、普段、研修会に参加できない遠方の方、終業時間が遅い方、帰宅後に家事等をする必要がある方などの参加者が増え、危機の中からも新たな効果が見いだせました。

さらに、12月には第50回埼玉県医学検査学会並びに記念式典を大宮ソニックスティで開催することができました。この学会は小職が学会長として「伝統と革新～知・技・驗の伝承～ 50回だヨ！全員集合～」をスローガンに、48回の武関学会、49回の飯田学会で立証された「感染対策をしっかりと行い臨床検査技師の知識をもって感染対策に臨めば現地開催は可能！」であることを念頭にWeb併催は行わず、現地開催一本に絞って企画を行いました。正直・・・開催当日まで一抹の不安はありましたが、皆様の協力で、学生から名誉会員の先生方まで一堂に会することができ、文字通り「全員集合！」の学会・記念式典となりました。

さて、令和5年は、新型コロナ、ウクライナ情勢、円安・・・不安材料が残ったままスタートとなります。当会としては社会情勢を鑑みつつ、部門別研究班並びに各種委員会による研修会を従前の現地開催も考慮して進めてまいります。また、第51回埼玉県医学検査学会は矢作強志氏（前当会副会長）を学会長とする実行委員会が既に準備を始めております。さらに、日臨技受託事業であるタスクシフト/シェアに関する指定講習会、臨地実習指導者育成講習会、地域ニューリーダー研修会、全国「検査と健康展」等も積極的に開催し臨床検査技師の資質向上に努める所存です。

最後に、執行部一同、本年も会員、賛助会員、地域のための技師会であるよう努力してまいりますので、さらなるご指導、ご鞭撻を賜りたく存じます。

本年もよろしくお願い申し上げます。

第50回 埼玉県医学検査学会の御礼



第50回 埼玉県医学検査学会 実行委員長 山口 純也

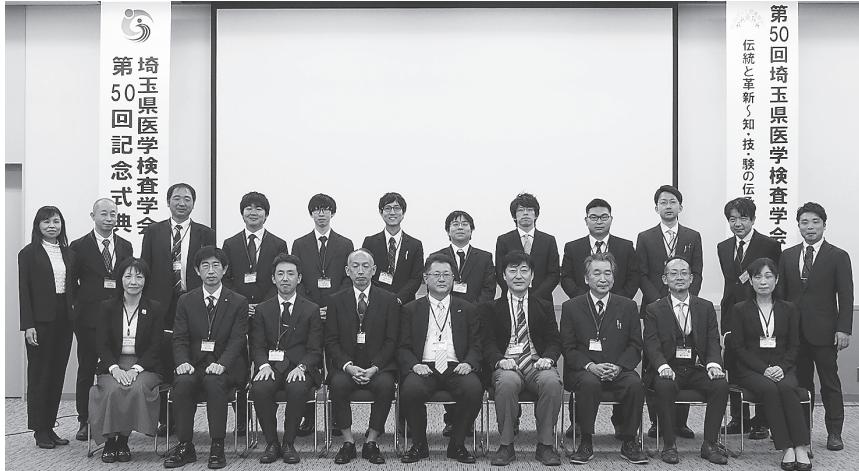
会員・賛助会員の皆様、有難うございました。

コロナ第8波が始まり、現地開催の是非が問われるなか、会員・賛助会員の皆様には多くの参加をいただき無事、開催することができました。この場をお借りして感謝申し上げます。

当日を振り返りますと、参加受付の行列、デジタルポスター会場のモニター故障等、皆様には大変ご迷惑をおかけいたしましたが、新しいことへ取組み、その一定の成果が得られ、今後に繋げていけるのではと感じております。

1年強の準備期間は大変でしたが1日の開催はあっという間に過ぎました。本音は疲れました。安心しました。でも何かすごく寂しいです。明確に終点が決められた実行委員会はパツと咲いてシュンと散った花火のような・・・実行委員の皆様、お疲れ様でした。

最後に、この埼玉県医学検査学会が、この先ずっと続くことを願い、お礼の言葉とさせていただきます。



第51回 埼玉県医学検査学会のお知らせ

開催日：令和5年12月3日（日）

会 場：大宮ソニックシティ

テ - ヌ : Let's connect!

サブテーマ：臨床検査技師になってよかったです

～人との出会い・検査との出会い～

第51回 埼玉県医学検査学会 学会長 矢作 強志

明けましておめでとうございます。第51回埼玉県医学検査学会の学会長を務めさせていただきます、川口市立医療センターの矢作強志と申します。昨年12月に第50回学会が開催され次の節目第60回、またその先の埼臨技学会1世紀へ繋げる一歩を踏み出す学会となります。昨年10月に第1回実行委員会を開催し新型コロナウイルス感染症の今後の動向はわからないものの、多くの専門学会等の現地開催が増えてきていることも踏まえ、開催形式を現地開催と決定しました。

今学会のメインテーマは「Let's connect!」、サブテーマは「臨床検査技師になってよかった～人ととの出会い・検査との出会い～」となります。connect=繋がる。過去の学会テーマを鑑み、原点に戻り臨床検査技師という職種との出会い。その後他職種を含め多くの方々との出会い、そこから繋がる新たな風景。そして多くの検査と出会い専門性を深めることで、臨床側へのアドバイスにて患者様の治療に繋がる職業である臨床検査技師になってよかった、という誇りを持っていただくテーマとしました。また学会カラーはクリーム色です。心理効果はリフレッシュやリラックス効果、前向きになれる自信が持てる色とありました。実行委員を含め、初めてまたは久しぶりの発表の方へのエールとなれればと思っています。

ロゴマークは近年3回の学会カラーピースが51回へ繋ぎ、52回へ繋ぐ手を表現しています。

昨年はサッカーW杯が開催され日本の快進撃もあり多くの方々が応援しました。今年は3月に野球のWBC、9月にはラグビーW杯が開催されより多くの盛り上がりが予想される反面、その裏側では涙なくしては繋がらない出会いもあるかと思います。

今回第51回埼玉県医学検査学会実行委員18名+担当理事2名の出会い・繋がりを大切にし、会員・賛助会員の皆様が楽しめる学会となるよう企画・運営していきます。ご協力よろしくお願ひいたします。



第51回 埼玉県医学検査学会 実行委員名簿

役 職	氏 名	施 設 名
学会長	矢作 強志	川口市立医療センター
実行委員長	小関 紀之	獨協医科大学埼玉医療センター
事務局長	塚原 晃	戸田中央総合病院
事務局	久保居 由紀子	JCHO埼玉メディカルセンター
会計部長	小林 麻里子	北埼玉医師会メディカルセンター
会計(兼SNS担当部長)	柿沼 智史	川口市立医療センター
学術部長	急式 政志	埼玉県立小児医療センター
学 術	工藤 淳子	北里大学メディカルセンター
学 術	今井 芙美	埼玉県立がんセンター
学 術	相良 真理子	埼玉県立小児医療センター
学 術	佐藤 奈都美	一般社団法人 浦和医師会メディカルセンター
学 術	稻葉 拓郎	株式会社 アムル 上尾中央臨床検査研究所
運営部長	永井 謙一	埼玉県済生会川口総合病院
運 営	前田 友子	越谷市立病院
運 営	福島 亜紀子	女子栄養大学
運 営	渡邊 剛	埼玉医科大学総合医療センター
運 営	池田 裕	さいたま市立病院
運 営	金井 知芙優	川口市立医療センター
学会担当理事	三木 隆治	獨協医科大学埼玉医療センター
学会担当理事	佐瀬 勝也	東松山医師会病院

全国「検査と健康展」開催される

令和4年11月12日(土)浦和駅西口コルソ1階コルソ通りにて、全国「検査と健康展」埼玉会場が開催された。検査待ちの列は途切れること無く大変盛況なイベントとなった。以下、実務委員として参加した方の感想を掲載する。

さいたま市立病院
山口 菜摘美

今回、初めて全国「検査と健康展」に参加し、パネル展示の説明や資料を配布しながら、認知症検査や検査相談への呼び込みを担当した。受付開始前から列が作られ、3年ぶりの開催を喜ぶ姿を見て、この全国「検査と健康展」が地域の皆様に浸透していることがとても素晴らしいことだと感じた。

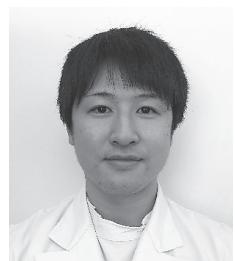


今年は体験できる検査が認知症検査のみということもあり、どのようにお声かけをしたらよいのか悩むこともあったが、声かけによって検査を体験した方がいる一方、検査をして結果を知ることが恥ずかしい、怖いなどと感じて避けている方が想像以上だったことが印象的だった。このように地域の皆様とふれあえる貴重な機会を活かして、検査に対する不安を少しでも解消し、検査に対する認識を変えられていいかなと思う。

共に参加されたスタッフの方々および埼玉県臨床検査技師会の皆様、この度はありがとうございました。

越谷市立病院
渡辺 智曉

今回、各専門分野についての検査展示パネルや、もの忘れ・認知症検査の体験コーナー、検査相談窓口などが設けられた。来場者にお渡しする資料には各専門分野について検査の原理、方法、臨床的意義が簡単にまとめられたプリントや臨床検査技師の仕事内容、活躍する場所が書かれた冊子が同封されており、こちらが準備したものが全て無くなるくらい好評であった。



メインとなるもの忘れ・認知症検査体験では、心配しながらも参加してくれれる方が多く、常に待機列ができているほどであった。認知症検査というと病院やクリニックを受診するほどではないと思う方や、自分にはまだ早いと思われる方がいる中で、今回は体験コーナーという検査を受けるハードルを下げたことにより、気軽に受けられたのではないかと思う。

この活動は臨床検査技師について知つてもらう良い機会になった。今後もこのような検査体験に参加することで、認知症予防ひいては医療への貢献の一助となれば幸いである。



もの忘れ・認知症検査体験



血液像パネルの説明



深谷市合同イベントFK Fes開催される

令和4年11月13日(日)深谷市役所にて深谷市合同イベントFK Fesが開催された。埼玉県臨床検査技師会ブースに市民が多く来場され、盛況なイベントになった。以下、実務委員として参加した方の感想を掲載する。

医療法人明晴会 西武入間病院
伊藤 隆史

去る11月13日に深谷市で行われたFK Fesに初めて参加した。今回3年ぶりの開催となったが、コロナ禍ということもあり、例年よりも縮小規模で実施された。当日は曇り空ではあるも気温はそれほど寒く感じず、たくさんの市民が来場してイベント全体は賑やかに行われた。埼臨技ブースでは臨床検査技師の職業紹介・がん啓発・認知症の啓発など市民への紹介や説明を行い、わずかな時間ではあったが検査相談も実施した。当ブースには69名の来場があり、イベント来場者からは「詳しく検査のことが聞けてよかったです」「臨床検査技師の仕事内容が知ることができた」等、多くの感想もいただけて充実した内容だったと実感した。

普段は患者さん以外の方々にこのような形で接することがなく、臨床検査技師の仕事ぶりをアピールすることは楽しく、今後もこのような機会があれば参加したいと思う。



研究班研修会報告

テーマ **新型コロナウイルス感染症治療の最前線**

主催 公衆衛生検査研究班

実施日時：2022年10月12日 18時30分～19時30分

会 場：Web開催 点数：専門教科－20点

講 師：岡 秀明（埼玉医科大学総合医療センター 総合診療内科）

参加人数：会員69名

出席した研究班班員：鈴木勤 鈴木由美子 吉田翔平 富井貴之

研修内容の概要・感想など

今回は「新型コロナウイルス感染症治療の最前線」というタイトルのもと、岡医師により講演が行われた。講演内容は、新型コロナウイルス感染症治療の現状に始まり臨床研究の話を交えながら、新型コロナウイルスとの向き合い方など多岐へ及ぶものであった。

現在承認されている薬はワクチン未接種者を対象としており、重症化リスクをもっている方でかつ軽症者が対象である。重症化リスクがなく、ワクチン接種をした人にはどれだけ効果を示すかわからないが、おそらくほとんど効果を示さない。また、先に話題となった抗体治療薬については変異株により使い道がなくなってしまった。同様に抗体カクテル療法はオミクロン株になってすぐに効かなくなった。モノクローナル抗体や抗体カクテル療法の抗体療法が使えないことは、治療薬を選ぶことを簡単にさせた。現在ニルマトレルビル／リトナビル（パキロビット）経口薬は臨床試験で89%の効果、レムデシビル点滴87%、ソトロビマブ79%の効果を示している。

日本のガイドラインはまだまだ不十分であり、アメリカのガイドラインでは重症化リスクのある人で軽症者ならば、まずはニルマトレルビル／リトナビルを考えて、だめならレムデシビルさらにそれでもだめなら、モルヌピラビルを使うというスマートな指針がある。そして軽症例ではステロイドを使ってはいけないことをうたっている。

重症化・死亡率は年齢が高ければ高いほど高くなる。そしてワクチンを接種しているかいなか、それに性別についても指摘されている（男性のほうが重症化しやすい）。さらにニルマトレルビル／リトナビル（パキロビット）が処方されているかいなかが、重症化阻止のファクターであることが現在わかっている。一方、日本のガイドライン第7版の現状であるが、政府はパキロビットを200万人分、ラグブリオを160万人分備蓄した。しかし使われた数はラグブリオ18万人分、パキロビット1万6000人分であり、全然パキロビットが使われていないことがわかっている。日本ではまず、薬剤相互作用を踏まえて、使いやすいラグブリオが使われる。取り扱う薬局がラグブリオは5万人分、パキロビットは1万人分であり、ラグブリオを使った実績のある薬局にしかパキロビットを供給しなかったといった流通の問題もあった。供給量が多いのに使えなくなっているということが問題点である。

今回の講演にて、変異を繰り返す新型コロナウイルスに対する知識が曖昧になっていたと認識した。現在、最前線で活躍している医師の講演を聴くことにより信頼性の高い正しい情報を獲得できた。聴講した会員においても現状のコロナウイルス治療最前線が見えてきたのではないかと考える。

（文責：鈴木勤）

テーマ **検査から見える疾患を知ろう！**

主催 血液検査研究班

実施日時：2022年10月28日 19時00分～20時30分

会 場：Web開催 点数：専門教科－20点

講 演 1：CML検査と病態

講 師 1：渡邊 純一（TMGあさか医療センター 血液内科部長）

講 演 2 : CML治療と今後の治療変遷

講 師 2 : 関口 康宣 (地方独立行政法人埼玉県立病院機構 埼玉県立がんセンター
血液内科課長 兼 診療部長)

協 賛 : ブリストル・マイヤーズ スクイブ株式会社

参加人数 : 会員132名 賛助会員4名

出席した研究班班員 : 中山智史 網野育雄 堀内雄太 濵川絵美 星聖子 加藤鉄平
島田崇史 吉澤悟 石田沙妃

研修内容の概要・感想など

骨髓増殖性疾患である慢性骨髓性白血病 (CML) はBCR-ABL融合遺伝子が原因となる疾患で、造血幹細胞レベルに異常が発生し、分化は正常だが血液細胞3系統の増殖が亢進した疾患である。一般的には白血球系を中心とした増殖を認め、幼弱な顆粒球系細胞、好塩基球や好酸球のような正常な状態では割合の少ない顆粒球系細胞が目立つようになる。多くの症例にフィラデルフィア染色体と呼ばれる9番と22番の染色体転座が見られ、BCR-ABL融合遺伝子が発現する。正常なABL1遺伝子ではミリストイル化N末端で細胞増殖の制御をしているが、ここがBCR-ABL融合遺伝子に代わることで非活性状態になることができず、血球が増殖する。認められる症状としては肝脾腫に伴う腹部膨満感、サイトカイン上昇による全身倦怠感、高ヒスタミン血症による全身搔痒感、骨髓内細胞増殖による骨痛などがある。しかしながら50%は無症状で、健康診断で白血球と血小板増加を指摘されて発覚することが多い。その他の骨髓増殖性疾患として真性多血症、本態性血小板血症、原発性骨髓線維症があり鑑別が重要である。

臨床ではCBCでの汎血球増加、白血球分画での幼弱な顆粒球系細胞、好塩基球、好酸球の増加、症状、VitB12高値、NAPスコア低値などによりCMLを疑い、FISH法、PCR法、G分染法などで遺伝子、染色体の異常を検査しBCR-ABL融合遺伝子が確認できれば診断が確定する。臨床経過は慢性期と呼ばれるBCR-ABL単独異常による増殖活性の亢進から始まり、BCR-ABLの点突然変異を経て、移行期、急性転化期と進んでいく。慢性期ではBCR-ABLの単独異常のため、チロシンキナーゼ阻害薬 (TKI) が著効するが、ほかの異常が加わった移行期や急性転化期では効果が乏しくなる。移行期、急性転化期には診断基準があり、移行期では末梢血あるいは骨髄における芽球割合が10~19%、末梢血における好塩基球割合が≥20%などが基準となり、急性転化期では芽球割合が≥20%、髄外病変の出現等が基準となる。

診断・治療の評価法としてIS-PCR法が用いられており、BCR-ABLが何%あるのかで治療効果の判定ができ、細胞遺伝学的完全奏功 (CCyR)、分子遺伝学的大奏功 (MMR) などの分類があり、臨床ではMMRより深い奏功であるMR4.0以下のDeep molecular response (DMR) を目指して治療が行われる。TKIの登場により予後は格段に改善され、第二世代の登場によりさらに改善している。早期の深い寛解 (EMR) が予後に影響することも判明しており、第二世代がより有望であることも分かっているが、薬により副作用等も異なるため、リスク別に第一世代を使い分ける必要がある。

CMLは末梢血液像である程度予測がつく疾患であるため、臨床検査技師が慢性期のタイミングで正しく臨床にデータを渡せることが重要である。そのため、形態学について良く学び、様々な疾患についてもよく知識を深めておくことが大切である。

(文責 : 加藤鉄平)

テーマ 第15回 1都2県臨床化学検査研究班合同研修会 『進化する糖尿病の検査と治療』

主催 臨床化学検査研究班

実施日時 : 2022年10月29日 14時00分~17時20分

会 場 : Web開催 点数 : 専門教科-20点

講 演 1 : 業務拡大に伴うFree Styleリブレのご紹介

講 師 1 : 高尾 昇平 (アボットジャパン合同会社)

講 演 2 : グリコアルブミンの特徴と標準化

講 師 2 : 服部 和久 (積水メディカル株式会社)

講 師 3 : 糖尿病性腎症と尿アルブミン

講 師 3 : 土井 創 (ニットボーメディカル株式会社)

講 師 4 : 糖尿病と運動療法

講 師 4 : 原 健二 (獨協医科大学埼玉医療センター 糖尿病内分泌・血液内科)

参加人数: 会員106名 賛助会員10名

出席した研究班班員: 永井謙一 北川裕太朗 小林真理子 石川純也 杉村楓 巖崎達矢

広瀬良磨 松重萌衣 福島涉

研修内容の概要・感想など

今年度は1都2県臨床化学検査研究班合同研修会を埼玉県の担当で開催した。近年、糖尿病に関する検査や治療は日々進化し臨床の場で使用されていることから、今回は『進化する糖尿病の検査と治療』と題し企画した。

血糖のモニタリングツールは、過去1～2ヶ月の平均血糖値を反映するHbA1cや、そのときの血糖値を把握するSMBGから持続的なグルコースを把握するCGMへと進歩してきたが、採血や測定毎の指先穿刺の痛みが伴う。Free Styleリブレは、二の腕の裏側にセンサーを装着し、表皮下の間質液中の血糖値を測定することで、15分毎に2週間モニタリングすることが可能となり、持続的な血糖値を把握できる。さらに、定期的な指先からの血糖測定による補正は必要としないメリットがある。専用のリーダーやソフトを使用することで、日内変動を把握することが可能で、特に夜間の無自覚低血糖を把握することが可能であるとのことであった。臨床検査技師の業務拡大で実施可能な生理学的検査としても追加されており、糖尿病療養分野での活躍の場が広がると感じた。

グリコアルブミンはアルブミンが糖化された物質で、約2週間前の平均血糖値を反映するマーカーである。アルブミンはヘモグロビンに比べ糖化速度が約4.5倍、半減期が半分であることからHbA1cに比べ糖尿病治療薬の早期効果判定に適している。これらの特徴から赤血球の寿命が変動する透析患者や高血糖が胎児の奇形に影響する妊娠初期の糖代謝異常の発見にはHbA1cに比べ特にメリットがあり、病態や治療の場面により使いわける必要があるとのことであった。また、国内外での測定頻度の増加に伴いJCCRM611-1を標準物質とした標準化が進行され、%とmmol/molとの換算ができるようになり国際的な標準化に対応している。

糖尿病の合併症は高血糖状態が続くことにより、血管内に炎症が起きその箇所での白血球の蓄積や脂質の取り込みにより血管の硬化や狭窄が進み血管障害が起きることで引き起こされる。合併症は脳梗塞や心筋梗塞などの大血管障害と網膜症・神経障害・腎症の細小血管障害に分けられる。その中でも腎症は新規透析導入の原因の1位で多大な医療費の負担に繋がっている。腎症は顕性腎症期後半以降から病態の可逆性が低くなり、透析療法期に進展してしまうため、それ以前に腎症を発見し治療することが重要である。尿中アルブミンは早期腎症期の初期段階から出現するため早期発見にはその測定が欠かせない。さらに糖尿病患者の中には、顕性蛋白尿を伴わずに腎機能が低下する症例が存在し、その有病率は年々増加傾向で高い死亡率と関連する症例が報告されている。腎症の早期発見には引き続き尿中アルブミンの測定が、重要な検査項目であるとのことであった。

運動療法は、食事療法と並んで糖尿病治療の基本のひとつである。その効果は、運動により使われた筋が糖や遊離脂肪酸の利用を促進させインスリン感受性の改善・血糖コントロールの改善・脂質代謝の改善などの効果が期待される。さらに、レジスタンス運動や有酸素運動により内臓脂肪細胞の縮小によるアディポサイトカインの減少や筋量の増加によりインスリン抵抗性の改善やフレイル・サルコペニアの予防に繋がる。一方運動は、網膜症・新血管系障害・骨関節疾患などの程度によりその症状が悪化する場合があるので開始の際はメディカルチェックが必要である。現在では、動画で運動療法について学べるツールが簡単に手に入るので是非活用していただきたいとのことであった。

(文責: 巖崎達矢)

**テーマ 初心者・初級者血液形態セミナー
～デジタル機器を用いて血液形態を共有しよう～**

主催 血液検査研究班

実施日時：2022年11月27日 9時30分～16時00分

会 場：学校法人明星学園 国際医療専門学校 点数：専門教科－20点

講 師：血液検査研究班

協 賛：シスメックス株式会社

参加人数：会員18名 賛助会員2名 学生10名

出席した研究班班員：中山智史 網野育雄 堀内雄太 濵川絵美 星聖子 加藤鉄平
島田崇史 吉澤悟 石田沙妃

研修内容の概要・感想など

午前中は中山氏により血液形態学の基礎的な講演が行われ、午後からは実習室にて、鏡検実習が行われた。小テストで班分けをし、3名のグループに1つモニターを置き、講師が実際に見ている目的の細胞を映し出し、それを参考にしながら鏡検を行った。基本的な細胞から病的な細胞まで形態学的な特徴を学ぶことができ、基礎から実践まで学べる講習会であった。以下に参加者の感想を掲載する。

(文責：加藤鉄平)



防衛医科大学校病院
福島 明音

この度は、研修会を開催していただきありがとうございます。私は、昨年12月に血液検査室に配属となり経験や知識が未熟であり、今回の研修会で基礎を学びたいと思い参加させていただきました。研修会午前の講義では、検体準備から形態の観察・染色などの基礎を学び、午後の実習では実際に症例標本を用いて様々な細胞を鏡検しました。鏡検時は直ぐに不明な点を講師の方々に質問できる環境でしたので、自身のスキルアップに繋がりました。また、血液形態学は様々な細胞を鏡検し、それらを経験することが上達する一番の近道だと思いましたので、日常業務に学んだことを活かしていきたいです。



公益社団法人 三越厚生事業団 三越診療所
松沢 奈津美

この度は、久々の現地開催の研修会の開催ありがとうございます。私は、診療所の業務としてまだ血液検査には携わってはおりませんが、午前の講義及び午後の実習を終えて改めて血液検査の知識が増したことを実感いたしました。この経験を活かし、今後の日常業務に邁進させていただこうと思います。



令和4年度 第1回 ワークライフバランス推進委員会 研修会のお知らせ

“ワーク” “ライフ” のバランスって何? ～仕事と私生活、充実していますか？～

女性技師企画研修委員会は、今年度から「ワークライフバランス推進委員会」へと名称変更しました。つきましては今年度の開催が決定しましたのでお知らせします。

講演1では、ライフスタイルの多様化とともに、働く方のニーズも多様化しています。そこで最近注目されているワークライフバランスについての考え方を、同じ臨床検査技師の梶山広美氏にお話しいただきます。

講演2では、歌舞伎と新派で身に着けた技芸を生かし、様々なジャンルの舞台にご出演、ご活躍中のの方舟俳優の林佑樹氏。その素顔は、島根県出身27歳の親しみやすい青年です。今回のお話で、私たちのなかにどんな変化が起きるのか？ワクワクが止まらない講演会になることと思います。

開催日時：令和5年2月12日（日） 10:00～11:30

開催場所：With You さいたま 視聴覚セミナー室 現地開催

講演 1：分かりやすいワークライフバランス

講 師 1 : 梶山 広美 (一般社団法人 岡崎市医師会)

講演2：美しい所作はどこから？ 林佑樹 女方の世界

講師2：林 佑樹（株式会社 松竹エンタテイメント）

募集人数：50名

募集開始：開催1か月前を予定（詳細は日臨技の会員専用ページでご確認ください）

*新型コロナウイルス感染対策として、お子様を連れての参加はご遠慮ください。

Digitized by srujanika@gmail.com

令和4年度 第2回検査室管理運営研修会のお知らせ

職場におけるコミュニケーションとメンタルヘルス

あなたの職場は？

～ コミュニケーションの取り方とメンタルヘルス ～

検査室管理運営委員会では管理職のみならず検査室を運営する皆様を対象に研修会を企画しております。

令和4年度第2回検査室管理運営研修会は「職場におけるコミュニケーションとメンタルヘルスあなたの職場は？～コミュニケーションの取り方とメンタルヘルス～」と題し、開催いたします。第1回研修会ではハラスマントの基礎と対策を学んでいただきましたが、その対応としてコミュニケーションとメンタルヘルスは欠かすことができません。昨今の検査室管理運営に必要不可欠な、ノンテクニカルスキルの向上に役立てばという想いで企画しました。ぜひ多くの方のご参加、お待ちしております。

開催日時：令和5年2月15日（水）19:00～20:30 Webにて開催（Zoom使用）

講 師：臨床心理士 根生 一治（医療法人社団富家会富家病院）

參 加 費：無料

募集人数：400人

募集開始：開催 1か月前を予定（詳細は日臨技の会員専用ページでご確認ください）

令和4年度 青年部研修会のお知らせ

クイズで紐解く実際にあった怖い事例 Ver.2

～みんなが困った、怒られた実例集～

青年部委員会では若手技師が同世代の技師との交流や共感、互いに自己研鑽できるような研修会を毎年企画しています。

今年度の研修会では、昨年度大好評を博した「クイズで紐解く実際にあった怖い事例～みんなが困った、怒られた実例集～」を第2弾として開催いたします。

若手技師が必ず直面する失敗談や先輩に怒られた事例などを、どうやって回避すべきだったのか、どう改善したのか等をクイズ形式で紹介し、参加者も実際に事例を体験しながら考えることのできるプログラムとなっています。

今回は検体系、生理機能、病理部門から3～5年目の若手技師の方々に講師をお願いしました。

Webで簡単にクイズにも参加できますので、参加者の皆さんも本研修会を教訓に、検査の取り組み方や考え方方に活かしていただければと思います。

皆様のご参加お待ちしております。

開催日時：令和5年2月24日（金）19:00～20:00 Webにて開催（Zoom使用）

參 加 費：無料

募集人数：400人

募集開始：開催 1か月前を予定（詳細は日臨技の会員専用ページでご確認ください）



令和5年度 技師会会費納入のお願い

令和5年度技師会会費納入の時期となりました。会費は前納制となっており、令和5年2月27日(月)に登録済み口座より振替となりますので、ご準備をお願いいたします。

また、不明な点につきましては、埼臨技事務所までご連絡をお願いいたします。

尚、本年度で退会を希望される方は、3月31日までに(一社)日本臨床衛生検査技師会HPより手続きをお願いいたします。(2月1日以降に退会手続きを行った場合は、口座より引き落とされますので、返金手続きが必要となります。)

ご理解、ご協力の程、宜しくお願ひ申し上げます。

会費の内訳については下記のとおりとなります。

会費内訳

一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会 会費 10,000円
入会金 2,000円
公益社団法人 埼玉県臨床検査技師会 会費 5,000円
入会金 1,000円

継 続 会 員 合 計 15,000円
新 入 会 員 合 計 18,000円

**令和4年度
公益社団法人埼玉県臨床検査技師会
第10回 理事会議事録**

日 時：令和4年12月8日(木) 19時00分より
場 所：埼臨技事務所

さいたま市浦和区領家7-14-7

議 題：I. 行動報告 II. 報告事項
III. 承認事項 IV. 議題

出 席：現地にて出席

(理事)神山 松岡 猪浦 山口 濱本
長澤 松寄 阿部 松尾 網野
佐瀬 三木 塚原 伊藤(恵)
神嶋 伊藤(隆) 石井 神戸
小林 長岡 久保田 長谷川
(監事)遠藤 細谷

本日の理事会の出席者は24名であった。理事の出席者は22名で、現在22名の過半数に達しており、定款第33条第1項の決議を行うに必要な要件を満たしていることを確認した。

議長は、定款第32条第1項より、神山清志会長が務めることとなった。

I. 行動報告

(令和4年11月10日～令和4年12月7日)

11月10日(木)令和4年度第9回理事会：

神山、松岡、猪浦、濱本、長澤、
松寄、阿部、松尾、網野、佐瀬、
三木、塚原、伊藤(恵)、神嶋、神戸、
石井、小林、長岡、久保田、
長谷川、遠藤

11月11日(金)全国 検査と健康展(埼玉会場)

前日準備：

塚原、伊藤(恵)、神嶋

11月12日(土)一般社団法人長野県臨床検査技師会創立70周年式典：

神山、松岡、山口

11月12日(土)日臨技関甲信・首都圏支部人材育成研修会：

神山、松岡、山口、濱本、神戸、
長谷川、網野

11月12日(土)全国「検査と健康展」(埼玉会場)：

猪浦、長澤、松寄、石井、阿部、
塚原、伊藤(恵)、神嶋、松尾、佐

瀬、久保田

11月13日(日)一都八県会長会議：神山、松岡

11月13日(日)深谷市合同イベントFK Fes：
塚原、伊藤(隆)

11月14日(月)日臨技精度管理報告会事前会議：
神山

11月15日(火)第51回埼玉県医学検査学会実行委員会：三木、佐瀬

11月17日(木)第50回埼玉県医学検査学会実行委員会：神嶋、三木、佐瀬

11月19日(土)タスクシフト/シェア講習会
(埼玉010) 前日準備：

猪浦、松寄、伊藤(恵)、佐瀬、長谷川

11月20日(日)タスクシフト/シェア講習会
(埼玉010)：

猪浦、長澤、松寄、伊藤(恵)、松尾、網野、佐瀬、長谷川

11月22日(火)日臨技支部長連絡会議：神山

11月22日(火)日臨技理事会事前連絡会議：神山

11月22日(火)第2回研究班運営委員会

(Zoom会議)：

松岡、山口、長岡、久保田、長谷川、阿部、神戸

11月23日(水)日臨技役員勉強会：神山

11月23日(水)日臨技理事会：神山

11月26日(土)日臨技精度管理報告会：神山

11月26日(土)日臨技精度管理部会：神山

11月27日(日)日臨技認定試験：神山

11月28日(月)青年部委員会会議：

塚原、濱本、神戸

11月29日(火)越谷市精度管理委員会：神山

12月4日(日)第50回埼玉県医学検査学会、同記念式典：

神山、松岡、猪浦、山口、濱本、
長澤、松寄、阿部、松尾、網野、
佐瀬、三木、塚原、伊藤(恵)、神嶋、
伊藤(隆)、神戸、石井、小林、
長岡、久保田、長谷川、遠藤

II. 報告事項

1 事務局

- 1) 11月15日(火)日臨技地域貢献賞について会員一名を日臨技関甲信支部に推薦した。
- 2) 11月18日(金)日臨技に災害対策WGアンケートを回答した。

3) 11月25日(金)埼玉県医療整備課に叙勲及び褒章における潜在候補者のリストを提出した。

2 総務部

- 1) 11月19日(土)タスクシフト指定講習会(埼玉010)事前準備を行った。(別紙資料1)
- 2) 11月20日(日)タスクシフト指定講習会(埼玉010)開催した。(別紙資料2)
- 3) 12月15日(木)埼臨技だより523号発行予定。
- 4) 令和5年1月15日(日)タスクシフト指定講習会(埼玉011)開催予定。担当理事は猪浦、佐瀬(責任者)、松寄、石井、伊藤(恵)、長谷川、網野、小林の予定。
- 5) タスクシフト指定講習会(埼玉011)の申し込み状況を見て、令和5年2月19日(日)にタスクシフト指定講習会(埼玉012)開催予定。担当理事は猪浦、松寄(責任者)、神戸、塚原、伊藤(恵)、神嶋、網野、佐瀬の予定。
- 6) 会員名簿使用状況アンケート集計結果について
(別紙資料3)

3 事業部

- 1) 11月11日(金)全国「検査と健康展」(埼玉会場) 前日準備を行った。(別紙資料4)
- 2) 11月12日(土)全国「検査と健康展」(埼玉会場)を開催した。(別紙参照5)
- 3) 11月13日(日)深谷市合同イベントFK Fesに参加した。(別紙資料6)
- 4) 11月28日(月)青年部会議を行った。
(別紙資料7)
- 5) 2月12日(日)ワークライフバランス推進委員会研修会開催予定。
講演名 「“ワーク” “ライフ” のバランスって何? ~仕事と私生活、充実していますか?~」
- 6) 2月15日(水)検査室管理運営委員会 研修会開催予定。
講演名 「職場におけるコミュニケーションとメンタルヘルス」
- 7) 2月24日(金)青年部委員会 研修会開催予定。
講演名 「クイズで紐解く実際にあった怖い事例Ver2 ~みんなが困った、怒られた実例集~」
- 8) 埼臨技だよりへワークライフバランス推進、検査室管理、青年部3委員会研修会の開催案内を掲載する。

4 学術部

- 1) 生涯教育研修プログラム2・3月分を埼臨技だより12月号に同封予定。

- 2) 11月22日(火)令和4年度第2回研究班運営委員会を開催した。(別紙資料8)

5 精度保証部

特になし

6 会計部

- 1) 令和4年度正会員費13名65,000円、入会金11名11,000円、再入会金2名2,000円、合計78,000円の入金があった。

- 2) 日臨技より生涯教育推進事業研修会助成金50,000円の入金があった。

- 3) 石井印刷に埼臨技だより第522号 印刷代166,320円を支払った。

7 精度管理委員会

特になし

8 一都八県会長会議

- 1) 11月13日(日)一都八県会長会議が開催された。(別紙資料9)

9 日臨技関甲信支部

- 1) 11月12日(土)日臨技関甲信支部首都圏支部人材育成研修会が開催された。(別紙資料10)

- 2) 11月12日(土)公益社団法人長野県臨床検査技師会創立70周年記念式典が開催された。(別紙資料11)

10 日臨技

特になし

11 第50回埼玉県医学検査学会

- 1) 11月17日(木)第14回学会実行委員会を開催した。(別紙資料12)

12 第51回埼玉県医学検査学会

- 1) 11月15日(火)第2回実行委員会を開催した。(別紙資料13)

III. 承認事項

1 事務局

- 1) 会員動向(令和4年度分)

令和4年12月1日現在
会員数 3,488名[令和3年度会員数3,329名]
(新入会員 276名)

賛助会員 70社[令和3年度 76社]

承認された。

- 2) 「地域ニューリーダー育成研修会」の受講申請及び推薦について
(別紙資料16)

- 上記の件について、濱本隆明事務局長から発言があり、審議の結果、承認された。
- 2 総務部**
特になし
- 3 事業部**
- 1) 学術権限の付与について
研修会開催用の学術権限について、北川委員長（青年部）塚原（ワークライフバランス推進、検査室管理）への付与の許可をいただきたい。
上記の件について、塚原晃事業部長より発言があり、審議の結果、承認された。
- 4 学術部**
- 1) 研究班マニュアル（フォルダ）改訂について
(資料事前配布済)
上記の件について、長岡勇吾学術部長より発言があり、審議の結果、承認された。
 - 2) 研究班公募について
(別紙資料14)
上記の件について、長岡勇吾学術部長より発言があり、審議の結果、承認された。
- 5 精度保証部**
特になし
- 6 会計部**
特になし
- 7 精度管理委員会**
特になし
- 8 第50回埼玉県医学検査学会**
特になし
- 9 第51回埼玉県医学検査学会**
- 1) 第51回学会予算案について
(別紙資料15)
上記の件について、三木隆治学会担当理事より発言があり、審議の結果、承認された。なお今後の医学検査学会の予算の在り方について、埼臨技予算委員会などで検討することとした。

IV. 議題

- 1 事務局**
特になし
- 2 総務部**
特になし
- 3 事業部**
特になし
- 4 学術部**
特になし
- 5 精度保証部**
特になし
- 6 会計部**
特になし

以上で本日の議事を終了し、議長は協力を謝して閉会とした。

あとがき

まだまだ新型コロナウイルス感染症の流行が収まらない中、新しい年を迎えるました。昨年12月4日(日)に第50回埼玉県医学検査学会、記念式典が盛会裏に終了いたしました。学会、式典を盛り上げるために尽力戴いた実行委員会、研究班の皆様、さらに忙しい最中にもかかわらず、演題発表をしてくださった演者の皆様、大変お疲れさまでした。今回、初めて理事として学会裏方に参加させていただきましたが、皆様の熱意と努力に驚くことばかりだけでなく学会、式典終了後には“温故知新を常日頃感じながら過ごすことが大事なんだな～”と思いました。今学会のテーマである「伝統と革新」は諸先輩方が築いた経験と実績を引き継ぐとともに医学の進歩を研鑽し未来へつなぐことの繰り返しで50回という回数を重ねてきました。これから60回、70回へと続いていくことを願っております。私自身も50代に入り、次の世代へ伝えられることを実践しなくてはと考えてしまいました。

(伊藤隆史 記)

